

お誕生

住所	氏名	性別	保護者
田口豊中	石坂蓮美香	女	麻紀 昭憲
内古田	古田 堅晟	男	男 昭 将
横田	田上 虎龍	男	

ご結婚

住所	氏名
岩下 熊本市	岩崎 雅和
熊本市	平山 沙織

おくやみ

住所	氏名	年齢	世帯主
田口白南三吉上上豊岩白上緑糸岩上	布田 正弘 旗田 シズ子 三箇 田上 一登 田 米村 正道 早川 小林 ツキメ 内 井上 タシ 下 村上 續 旗 井芹 光雄 揚 赤星 源藏 町 杉本 ムメ子 田 塚崎 初恵 下 松永 素生 上早川 美濃田 ムワ	66 76 95 96 87 96 83 88 90 91 91 68 81	誠一郎 美智雄 育 男 正 英 学 山本 泰生 一 淳 一 敬 サチ子 ムメ子 治子 和 浩

〔町史編さんだより〕

今回は、旧糸田村庄屋の緒方家についてお話しします。近世の肥後細川藩の地方行政区画は、郡から手永、手永から村にというように区分され、それぞれ郡代、惣庄屋、庄屋が担当していました。今の組織に強いて当てはめるなら、県振興局長、町長、区長といったところでしょうか。

郡代は、はじめは郡奉行と呼ばれていましたが、宝暦の改革で郡代となり、惣庄屋らに対し職務の指示をしました。惣庄屋は、手永内の各村を指揮し、その下で村を統括・代表していたのが庄屋でした。

庄屋は、行政組織の最末端として、村の人畜数の調査をしたり、貧困者の救済、年貢や雑税の賦課・徴収という、百姓と日常的に接することが仕事でした。

江戸時代、緒方家が庄屋を世襲していた糸田



この内、郡代と惣庄屋は知行取りであるため、どのような職掌であったのかは、藩庁であった細川家の永青文庫に史料が多く存在して、ある程度のこととは理解できます。ところが、村の長である庄屋の職掌については、史料の多くがそれぞれの地域に分散していること

や地域性もあり、なかなか具体的に分かりづらいものです。その中で、甲佐町糸田(旧糸田村)の緒方家文書は、量・質ともに県内屈指のもの。県立図書館の文書調査では、1394番まで番号がつけてありますが、一括して「書状」として分類された

甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(18)～

甲佐町の庄屋文書(前編)

町史編集委員 花岡 興史 (近世)

ものもあり、その数は膨大です。緒方家が特に注目されるのは、早い段階から糸田村の庄屋を世襲した家柄だからです。多くの地方文書は、19世紀に入った文化・文政期のもですが、ここには、18世紀前後の元禄・正徳期の早い段階の糸田村関係文書が、伝来しています。庄屋は、18世紀中ごろの宝暦ころまでは世襲されることが多く、後に所替が頻繁に行われるようになり、任地に根ざした者は少なくなりました。しかし、この緒方家は連続として糸田村庄屋としてあり続けていました。(次号に続く)

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編纂係
☎096・234・3310

編集後記

日本勢の活躍もあり、盛り上がりの中に閉幕した冬季五輪。今回の開催で、テレビ観戦を一番楽しみにしていた競技は、カーリング競技。「氷上のチェス」と呼ばれ、2チームが戦略を立てて、交互に氷上で石を投げ合い得点を競うスポーツ。

ただ、最大の関心事は競技そのものではなく、そのテレビ解説。初心者的心を競技の魅力へといざない、上級者の目的を的確な戦術分析で競技の本質に向けさせる語り口が印象的だった前回大会の解説は、メダル級。

今大会も、その語り口は健在で、カーリングというマイナーな競技の醍醐味を知ってもらいたいという、競技への敬意と愛情にあふれたものでした。

情報を分かりやすく伝える仕事に携わる者として、今回も感心することしきり。4年後の観戦もまた楽しみます。(一)

DATA		
平成22年1月31日現在		
人口・世帯数	増減	
男	5,362	9
女	6,121	11
計	11,483	20
世帯数	4,142	6